広島平和体験学習で学んだこと

山本翔大

僕が平和体験学習で学んだことは、命の大切さです。昭和二十年八月六日、広島に一発の原子爆弾が落とされました。原爆が落とされてから一瞬で人々の命を亡くしたと被爆体験者のむつひこさんは言ってみえました。むつひこさんは当時十一歳だったそうです。原子爆弾が落とされた日、一発の光を見て、あわててお母さんと一緒に防空壕に入り身を守ったそうです。その後、午前八時十五分街中に原子爆弾が落とされ近くを流れる川に火傷をした人が飛び込んでいく姿を見たそうです。

原子爆弾が投下されてから七十二年。むつひこさんは八十二歳になり、原子爆弾を知らない現代の人々に向け、今でも講話会を開いてみえるそうです。

今回の広島訪問で印象に残っているもう一つ。それは、原爆ドームと平和記念資料館です。原爆ドームは、爆心地から百六十メート

20 × 20

ルしか離れておらず、上空約六百メートルで原爆がさく裂したため、建物は大破・全焼して館内にいた全員が即死してしまったそうです。

資料館内にあった資料の中で目についたのは、三輪車です。その三輪車は、今私達がよく目にする物とは違い、原爆が投下された熱により真っ黒に焼け焦げてしまっていて、改めて原爆の恐ろしさを感じました。

僕は、今回学校の代表になったつもりで広島を訪れ、戦争の悲惨さと平和の尊さについて学び知ることができ、とてもいい機会になりました。

20 × 20